

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475301071	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年3月1日	
法人名	株式会社ウイズネット			
事業所名	グループホームみんなの家川崎久地			
所在地	(〒213-0032)			
	神奈川県川崎市高津区久地 2-12-22			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年12月1日	評価結果 市町村受理日	平成24年1月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今回は皆で何を作ろうかねー？」・・・毎月1度開催している食事作りの前のひとコマです。皆で食べたい物を話し合い考え、ご入居者様、職員が力を合わせて食事を完成させると一段と美味しく感じられます。そして2ヶ月に1回は1、2階合同で食事作りを行なっています。又、個別レクリエーションとしてご入居者様が昔から馴染みのある銭湯や甘味処、競馬場等にも積極的に出掛け、共に楽しい時間を過ごしています。その他にもプランターの管理をお願いしたり、鶴が得意な方とは一緒に千羽鶴を作ったり、定期的に歌の会を開催したりと皆が楽しめる事と、お一人お一人が楽しめる事、生きがい作りを考え日々の援助に努めています。「昨日、今日、明日を考え笑顔でより楽しい毎日を！」の理念の基、私達のホームはいつも笑いと笑顔に溢れています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年12月20日	評価機関 評価決定日	平成24年1月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】

◇法人・事業所の理念を職員が毎朝唱和して、再確認するとともに共有して利用者の支援にあたっている。
 ◇地域の中の一員として、「緑と花の町作り」の活動に参加して、毎日の水やりなどの管理をしながら地域住民との交流を築き、深めている。
 ◇外出支援ではケアプランに個別支援を取り入れ、銭湯、東京競馬場、レストラン等本人の馴染みのある場所に外出している。
 ◇各居室は洗面台・整理ダンス・クローゼット・ベットが事業所の設備としてある。また、スプリンクラーが設置され火災時にも対応し、安心して生活が出来るようになっている。

【事業所が工夫している点】

◇2か月に1回、1、2階の利用者と職員と一緒に昼食づくりを行っている。メニュー、買い物、盛り付け、配膳など利用者主体で行い、職員はお手伝いに徹した支援に取り組んでいる。
 ◇東日本大震災後、職員からの発案で職員会議やフロア会議等で何度も検討し、安全・衛生を重視しつつ電力節減を職員全員で取り組んでいる。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家川崎久地
ユニット名	1階フロア

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内（玄関・スタッフルーム）に掲示し、出勤直後の申し送りの際、唱和・共有し、理念に基づいたサービス提供を心掛けている。	・ホームの理念である、「昨日、今日、明日を考え、笑顔でより楽しい毎日を！」を実践するため職員から利用者に笑顔で接し、利用者からも笑顔が返る支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会との“緑と花の町づくり”活動、子供会との“流し素麺納涼会”“御輿祭り”、ボランティアの腹話術訪問などの交流がある。	・住宅地の中にある事業所なので、隣接する同法人グループホームと一緒に、町内会の一員としてイベントに参加したり町内会が設置したプランター等の花の管理を利用者が主体で行い、地域との交流を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の外出を通し挨拶からの会話の中で、また子供会共催行事などで、職員は認知症の方の理解をして頂ける様努力している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。ご家族様・町内会長・民生委員・婦人部長・地域包括支援センター職員の方々に参加して頂き、話し合いの中での意見から、サービスの改善・改良に努めている。	・運営推進会議では、地域のイベントの情報を聞いて、利用者と職員が協力して参加している。 ・参加した利用者の家族から「本人が馴染みの銭湯に行きたい希望がある」との話があり、その後のケアプランに取り入れられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の担当者や区役所職員などの連絡を定期的に行なっている。又、ホームに来訪して頂く際には取組みを伝えながら実際に現状を見て頂いている。	・市町村とは3カ月に1回程度で連絡を取り合っている。 ・高津区役所のケースワーカーの来訪時に、取組みについて相談することがある。	

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を前提としている。ホーム内で身体拘束廃止委員会を設置し、月に1回の勉強会の中で理解を深めている。 又、身体拘束に関する勉強会にも参加している。	・職員は事業所、法人、外部等の研修を積極的に受けて身体拘束をしないケアを共有して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待マニュアルを有し、職員に周知されている。 又、安全対策委員会への参加、その内で配布された資料の回覧・勉強会の実施の中で注意喚起・職員の意識向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人で開催しているセミナーの開示をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、契約の締結等の説明を十分に行い、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様来訪の際は、必ずご利用者様の近況報告をしている。 又、日々の電話でのやり取りの中でも、積極的に意見を聞き出す様、努めている。家族会を含め、ご希望やご要望を反映させ続けている。	・家族会を2か月に1回開催している。 ・面会時に家族と話しをする時間を設けている。 ・毎月1回「一口通信」を発行して事業所内に掲示し、また家族に郵送して利用者の近況などを報告している。	

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や個人ヒアリング・連絡ノート・小規模カンファレンスを用い、常に意見出来る環境を作っている。	・職員間には信頼関係が保たれている。 ・職員からの提案で「集団の外出はあるが、個別ではない点、改善要」の意見があったので、ケアプランで取り上げた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課を実施している。職員個々の勤務態度、努力、実績を平等に評価をし、皆が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備をおこなっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フォローアップ研修など各種研修の参加機会を有する。希望者は受講する事が可能であり、働きながらスキルアップ・トレーニングが出来る環境を有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣接施設・法人内の施設との交流はあるが、他法人との交流は出来ない。本施設にはない農業設備やロボット犬などを持つ他法人との交流を検討していきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずご本人様にヒアリングを行い、思いを尊重する様努めている。又、ご家族様の情報や生活習慣・職業履歴も参考にしている。		

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に時間を設けて、御家族様の話に傾聴している。 又、家族会参加や日々の訪問をお勧めし、話をする機会を多くする様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前実態調査を入念に行なう他、入居直後にはご利用者様の健康状態や精神状態について、観察・適宜カンファレンスを行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の生活レベルを踏まえ、可能な作業（家事など）を行なって頂き、感謝の気持ちを必ず伝えている。 又、ご利用者様が得意とする事を職員に教えて下さる事もある。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の“一言通信”の発送により、ご利用者様の状況報告をする他、面会時や電話でも日々の様子を話す様にし、情報共有をする事により、共に支えていける様努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様やご友人との外出・外泊を支援し、レクリエーションの一環として、ご本人の昔からの趣味であった場所に出掛けたり、ご友人が面会に来て下さる環境を作っている。	・利用者一人ひとりの生活歴などから、利用者の社会との係わりを把握して外出支援などにつなげている。	

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常作業の分担などを通し、ご利用者様それぞれが得意な事で、他の方と関わっていける様な環境を作っている。 又、皆が参加出来るレクリエーションの工夫も行なっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、御家族様から相談を受けたら、真摯な対応適宜フォローしている。御家族様の母親が退居された後、父親が入居された例もある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人との会話の中から聞き取り、そこから広げた物をカンファレンスに活かしている。常にご本人様の希望や意向の把握に努めている。	・回想法を取り入れて、本人の思いや意向を導きだしている。 ・把握が困難な利用者の場合は、表情や態度を観察して本人の意向に近づける支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前実態調査にて出身地など生活歴の把握をする。その他、日々の暮らしの中でもご本人とのコミュニケーションからも情報収集に努め、変化する生活レベルを考慮する努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	チェック表により、バイタル・食事量・水分量・排泄を観察している。又、申し送りや連絡ノートにより、日々の変化を認識している。		

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意向を必ず取り入れ、カンファレンスを行い、ケアプランへと繋げている。	・通常は3か月か6か月でケアプラン作成をしているが、ケアプランが現状に合わなくなった時点で、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申送り、連絡ノートや医療ノート、健康管理チェック表を共有・参考にして、毎日のケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージやシニアセラピーなどのプラスのサービスを取り入れたサービスを行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会・子供会・ボランティア等の協力を得て、交流を深めている。又、運営推進会議の際は様々な情報を頂き、参加に勤めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の定期往診において、往診医とご利用様が顔馴染みの関係である。急変の際も緊急対応出来る支援体制である。	・事業所の提携医が定期的に往診している。 ・家族の付き添いがあれば希望の医院に通院することも可能である。	

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携看護師による訪問看護を受けている。 又、医療連携看護師連絡記録を用いて変化報告の指示を受けて情報を共有し、適切な看護を受けられる様努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご利用者様のホームでの生活状況を詳しく情報提供している。 又、早期退院を目標とし、入院中も随時病院関係者との情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の際の説明を行なっている。 又、状態の変化に応じ関係機関の協力を得ながら話し合いの場を持ち、チーム支援に取り組んでいる。	・本人、家族の希望に沿うよう職員でチームを組んで支援をしている。 ・医療処置がある利用者には現況では難しく、医療機関にお願いしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生・緊急時の対応方法を設置し、職員が迅速に対応できる様努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、様々な状況を想定した避難訓練を行なっている。	・町内会や隣接グループホームと一緒に避難訓練をおこなっている。 ・日中だけでなく夜間を想定して訓練をしている。 ・各部屋にスプリングクーラーを設置している。	・災害時の備蓄の取り組みは職員全員で必要な物のリストを作成し用意するなど、充実した取り組みになると期待します。

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格尊重・プライバシー保護に努め、安心と尊厳のある生活を送れる様取り組んでいる。	・職員は接遇の研修を受け、言葉遣いに注意し、利用者を人生の先輩として尊厳を遵守した支援を行っている。 ・人前で個人に関する会話はしない、トイレ誘導の声掛けはさりげなく行うなど、プライバシーへの配慮を徹底している。個人情報書類は事務室で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	談話中のヒアリング・傾聴に注視し、思いを聞き取ると共に、趣味や生活暦を含めた中で、自己決定して頂ける様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の思い・意思を尊重する事を大切にしている。 又、ご本人の情報を把握しながら、耳を傾けそれに沿ったのケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の服装を選んで頂いたり、洗面用具をお渡ししたりして、“その人らしさ”の尊重に努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事の際の盛付け・配膳などを共に行なうのは勿論、イベントとして行っている食事作りの際には、個々の能力に合わせた作業に取り組んで頂いている。	・利用者は盛り付けや配膳を手伝い、職員と一緒にテーブルを囲んで会話を楽しみながら食事をしている。食事やおやつの手作りの日を設け、利用者がメニューを決め職員と一緒に調理に取り組んでいる。外食に出掛けたり、出前の取り寄せを楽しむこともある。	

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下・咀嚼状態は毎食毎に職員が見守り観察を行なっている。 又、1日の水分量・食事量をチェック表に記載し、状態により医療機関に繋げて食事形態の変更を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け・介助を行なっている。 又、週1回訪問歯科の訪問がある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表により排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけない声掛け・トイレ誘導・排泄支援を行なっている。	・排泄チェック表に記録し一人ひとりのパターンを把握して、さりげなくトイレ誘導を行い自立に向けて支援している。夜間も安眠の妨げにならない23時前後に声掛けをし、トイレ誘導をして失禁の軽減に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	どうすれば便通が良くなるかは個々によって異なる為、乳酸菌飲料や散歩・毎日の体操など予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	予め入浴日を決めてしまうのではなく、その日の状況（体調）を配慮し、入浴を促している。 決して無理強いはいしない。	・入浴は曜日を決めず、いつでも好きなときに入れるようにしている。週2～3回の入浴が殆どだが、毎日入浴する方もいる。同性介助を希望する方や足浴や手浴などにも対応している。入浴を好まない方にも無理強いせず声掛けなどで工夫している。	

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や休息に注意し、昼夜逆転が起らない様に努めている。 又、夜間の巡視では適切な照明・室温に気を配っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	直接薬剤師からの説明を受け、薬の理解を深めている。 又、随時薬状ファイル（薬剤説明書）を確認、変更があれば医療ノートを用い、共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	プランターの整備や千羽鶴作り等、趣味・特技を活かすお手伝いをしたり、外出・散歩で気分転換が出来る様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の行きたい所・食べたい物を実現出来る様、個別レクの実践を行っている。 天気の良い日の毎日の散歩、月曜・木曜のお買物は慣習化されている。	・天気の良い日はグループごとに散歩をし、週2回は自分の必要品の買い物に出掛けている。ほかにも食事作りの買出しや町内会と共同のプランターの花に水遣りを行っている。 ・利用者の希望する場所への遠出も行い、電車を乗り継いで東京競馬場に出掛けた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、お金の管理はホームにて行っているが、安心の為に小銭を持って頂いている方もいる。 個々に応じ、職員付き添いのもと、買物を楽しんで頂ける様支援している。		

みんなの家 川崎久地

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様のご希望に応じ、随時電話の取次ぎを行なっている。 手紙に関しても、投函の支援を行なっている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃・喚起・温度調整は毎日欠かさず行なっている他、写真や塗り絵・折り紙などを飾って趣向を凝らしている。	・日当たりの良いリビングは清潔に保たれ、換気や湿度にも気を配り快適な空間になっている。 ・ソファの前に畳コーナーを設け、落ち着けるよう工夫している。 ・クリスマスの飾りや利用者の作品を飾り季節感と温かさを演出している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや大型TVを設置し、幅広く移動出来るスペースを設定している。 ソファにて気の合う入居者様同士でお話している事が多い。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴れ親しんだ家具や使い慣れた生活用品を置いて頂き、ご本人様が居心地の良い空間となる様工夫している。	・居室にはクローゼット、タンス、ベッド、エアコン、洗面台が設置され、自宅から仏壇やテレビなど馴染みの品を持ち込んで、居心地の良い部屋作りをしている。 ・夜は足元の安全確保のため、足灯で照らし、霧吹きや濡れタオルで部屋が乾燥しないよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・動線上の障害物排除を意識し、職員の見守りを徹底している。			

目 標 達 成 計 画

事業所名

みんなの家川崎久地

作成日

平成24年1月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		災害時の備蓄の偏り、不足。	災害時、本当に必要な物を揃える。	職員会議で災害時の必要物品、非常時持ち出し袋の再確認を全員で行いリスト作成。物品を購入し、以後定期的に管理を行う。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。